



# 地域なんでも情報局

令和6年2月15日発行  
長崎市社会福祉協議会  
長崎市恵美須町4番5号  
☎095-828-1281

# 牛寺集記事



家の門に置いたことが門松の由来であることや、当初は松だけを飾り付けていたが、徐々に南天や梅で飾り付けをするなどして今の門松になつていることなどを教えていただき

「これ持つて帰つたら家族が喜ぶかな？」と和気あいあいとした雰囲気の中で楽しんでいました。

前日に、スタッフの方達で  
数十本もの竹を切り、地域の  
方が所有されている山から飾  
り付け用の松の葉や南天など  
を持参され、準備は万端。

当日は朝早くからスタッフ  
が集合して、最初に各小中学校  
やふれあいセンターに飾る  
本格的な門松づくりを行いました。  
2mをゆうに越える竹  
を切り揃えて、その周りを竹

皆さんお正月と言えば、何を思い浮かべますか？お餅お年玉、おせち、初詣など、行事が目白押しですね。その中でお正月を迎える準備として、地域で行われている門松づくりをご紹介します。

12月24日に三川中学校にて西山台・三原小学校区育成協議会が主催する門松づくりが行われました。

**門松みんなで作りました！**

# 西山原校區



める場を開催していき、子ビ  
も達に地域に愛着を持つても  
らい、この門松づくりをつな  
いでいってもらいたい。」ヒ  
話されていました。こういつ  
た活動の一つ一つが次世代に  
つなぐ種となり、たくさんの  
愛情を受けた大きな花となつ  
てもらえればと願っています。

議会 平則子さんの指導のもと、皆でゆうこうゼリーを作りました。収穫したてのゆうこうを圧搾機で絞るところから始まり、参加者が皆で協力して酸っぱくて美味しいゆうこうゼリーを作り上げることができました

最後には、作ったゼリーを全員で食べて、「酸っぱ

長崎市の伝統的な柑橘“ゆうこう”をご存じですか？外海地区や土井首地区では昔から家の周囲で栽培され地域に馴染んだ果実です。出津地区コミュニティ協議会（杉山会長）では、令和5年12月16日に“ゆうこう”的郷づくり”と銘打ち、伝統的な果実を活用した地域交流活動が行われました。

“ゆうこう”を“有効”活用し、地域課題の解決に取り組まれながらも、住民同士の“友好”的輪が広がる鄉になるよう、活動を応援していきたいと思います。

「なで作って楽しめた」と  
の声が上がつていました。

出津地区コミュニティ協議会 地域づくり部会 鶴田部会長へ、今後の目標について伺うと、「この地域でゆうこうを広め、荒廃農地を少しでも減らしながら農業で生活できる、持続可能な地域にしていきたい」と話されていました。

「**有効活用した郷づくり**」を  
ゆうこうりを

「会ホームページ。ページから「地域なんでも情報局  
バックナンバーがダウンロードができます。  
長崎 地域なんでも情報局』で検索♪  
下記QRコードからも見られます。

当会ホームページから「地域なんでも情報局  
バックナンバーがダウンロードができます。  
『長崎 地域なんでも情報局』で検索♪  
下記QRコードからも見られます。

A photograph showing three women wearing light blue hats and aprons, working in a workshop or storage area. One woman stands on the left, leaning against a wall. Two other women are crouching on the floor on the right, focused on a task involving a large metal drum and a red plastic bag. The background is filled with wooden crates, boxes, and various items stored in a dimly lit room.

議会 平則子さんの指導のもと、皆でゆうこうゼリーを作りました。収穫したてのゆうこうを圧搾機で絞るところから始まり、参加者が皆で協力して酸っぱくて美味しいゆうこうゼリーを作り上げることができました。最後には、作ったゼリーを全員で食べて、「酸っぱ」と

長崎市の伝統的な柑橘 “ゆうこう” をご存じですか？  
外海地区や土井首地区では  
昔から家の周囲で栽培され  
地域に馴染んだ果実です。  
出津地区コミュニティ協議  
会（杉山会長）では、令和  
5年12月16日に “ゆうこう”  
の郷づくり”と銘打ち、伝  
統的な果実を活用した地域  
交流活動が行われました。

11

を“有効”活動の解決に取り組む、住民同士の輪が広がることを願っています。

社協会員募集中!! 『地域なんでも情報局』は、市民の皆様からお寄せいただいた社協会費により発行しています。

# 錢座地区防火防災フェスタ

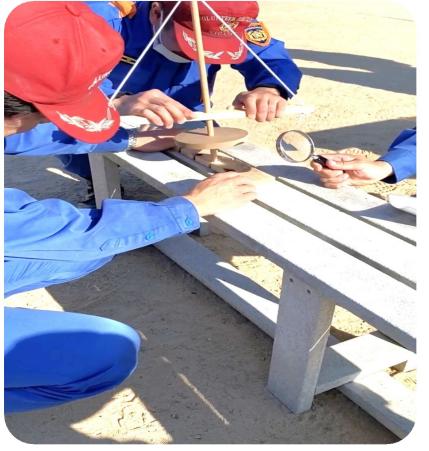
“見る、聞く、触れる、体験する”というコンセプトで、11月3日に錢座小学校運動場・体育館で“防火・防災フェスタ”が5年ぶりに開催されました。

主催は錢座校区防災協議会で、長崎県振興局等が協力し、市社協も車椅子体験のブースを担当しました。

消防着試着体験や、煙体験テントでの煙の恐怖体験、水害のVR体験などの豊富な内容で、地元の小学生、高齢者を含め約280名の参加者が来場し、大盛況となりました。

緑町自治会の濱崎会長のアイデアで実施した火おこし体験には「子ども達は火に触れる機会が少ないので、火の怖さ・良さ」を認識してほしい」という熱い思いがありました。実際の火おこし体験では、子ども達が長蛇の列で並び、機として、“火”的存在、そして地域住民の方々が少しでも災害や防災に関心をもつてもらえる機会になればと思います。

(山口 愛莉)



# 地域に新しいつながりを

11月20日に、高齢者ふれあいサロン“やまびこ”と上長崎小学校の4年生と一緒に“上小みんなのサロン”を開催しました。

（山口 愛莉）

みんなのサロンは、小学校の「地域のお年寄りと会つて、一緒に楽しめるることをしたい」という思いから実現しました。サロンでは、4年生がプログラムを作成し、司会進行もしていまし

た。児童が手作りで準備をした魚釣りやペットボトルボーリングなどを高齢者とともに楽しみました。閉会後には、児童が花道を作り温かく見送りました。このようないらっしゃいました。

アンケートに記載されていた参加者の主な意見としては「普段できない体験ができる、良い機会になった。」「消防・防災のいろんな仕組みを知ることができた。」「防災意識を高める良い機会となつた。」という声がありました。

世代間交流の機会が減っている今日ですが、よ

り良い地域づくりのために

は、子どもと高齢者が一丸となつた地域づくりが必要

です。そのために、日ごろから高齢者と子どもがつながる機会が大切です。“上小みんなのサロン”的な取り組みを他の地域でも広げていくことができればもっと地域が盛り上がる感じました。

生活支援コーディネーターは、このような新しいつながりや居場所づくりも応援していますので、自分たちの地域で「こういうのがあったいいなあ」をぜひ教えてください。

消防・防災フェスタを契機として、“火”的存在、そして地域住民の方々が少しでも災害や防災に関心をもつてもらえる機会になればと思います。

(戸畠 太二)



# 第39回長崎市社会福祉大会

長崎市社協では、令和5年11月8日、長崎市民会館文化ホールに於いて、長崎市社会福祉大会を開催しました。

（戸畠 太二）

長崎市社協は、「誰もがふだんの暮らしのなかでしあわせを感じられる笑顔あふれるまち“ながさき”をみんなでつくる」という目標を掲げ、今回の大会テーマを『みんなで創りだそう！コロナ後のつながり』として、当日は、老若男女の市民約600名に参加していました。ただきました。

大会では、4団体34人の社協会長の表彰、2地区の共同募金会の表彰、3地区



ました。地域における課題提起と対応の映像は、参加された方々の心に、地域福祉の火が灯つたようでした。

（田中 康彦）

新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、初の開催ではありましたが、感染もなく終了できましたのも、皆様の協力があつてこそ、賜物と感謝申し上げます。

新年が始まりました。寒いなか大変ですが、ご自愛いただきながら、地域のまますますのご発展をお祈りしています。